

千葉菌類談話会 第58回観察会



温暖な気候に恵まれた千葉県は、キノコの種類が豊富で愛好家も多い。七月二十四日、そんな千葉菌類談話会の観察会に参加した。

午前中は佐倉城址公園内を散策し、キノコ採集。昼食をはさんで、午後は勉強会を兼ねた同定会（種類ごとに、キノコを並べて名前を判別する）。世話人の吹春俊光先生によると、県内で見つけられるのは約七百種類、その中でよく見かけるのは百種類、毒キノコは約一割（千葉県で五十種類）、猛毒は一パーセント程度（千葉県で十種くらい）。しかし一割くらいは

おいしく食べられるぞう。

副会長の吉田さんによると、温度、湿度などすべて条件がそろうまで、じつ

と地中で発生のチャンスをとかがっているぞうだ。腕章をつけた人に「見つけましたか〜」など声をかけ

あいながら探し進めると、吉田さんが斜面で「シロオニタケ」を発見。持ち



シロオニタケと吉田さん

帰り方は、「蒸らさない！」が絶対条件。紙袋に入れるか新聞紙に包むなどの工夫を。

並べてみると壮観だ。熱心な質問が飛び交う。よく見かけるツルタケ、カブトムシのにおいのケシヨウハツ、猛毒フクロツルタケなど。珍しいクモタケは、シ

グモに似たトタテグモに寄生する冬虫夏草の仲間で、城址公園のキノコを特徴づけるものの一つだ。クモタケの分布の東端に近いところに佐倉市があり、県内でもここにはたくさん発生する。名もないキノコも含め、不思議な世界を知ると、ど

んぐんぐん。説明中、「それはまだ解明されていない」という吹春先生の言葉が、魅力を増幅させているよだった。

会では、年に数回の観察会やスライド会、講演会などを行っているぞうだ。

(Eメール:ガベ)

※問い合わせ

☎043(2905)3921

千葉県立中央博物館

植物学研究科付 吹春

<http://homepage2.nifty.com/>

chibakm/

千葉菌類談話会



吹春先生